

地小出版
方小版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

▼沖縄書店事情 ——— ★★★

今年4月、那覇市街地に一挙、 2店舗合わせて200万冊!

文・新城 和博

ジュンク堂が、沖縄県那覇市に進出するというニュースは、今年2月マスコミに発表された。場所は、沖縄復帰後の1975年に沖縄進出し、2005年に閉店したダイエー那覇店跡のビルである。

那覇のメインストリートである国際通りと隣接する沖映通りにあったダイナハ(ダイエー那覇店のこと)は、日本本土(と敢えて使うが)からやってきた初めての大型店舗だった。当初その出店を巡り地元商店・市場からの反対運動まで起こったダイナハだが、70年代から80年代にかけては、街のシンボリックな存在となっていた。しかし90年代後半からは、那覇郊外にジャスコや地元大手スーパーのサンエーが無料駐車場を備えた大型店舗を展開するようになると、地元客の足は次第に遠のき、05年の閉店を迎えた。

地元では一時、規模の大きさに不安視する声もあったが……

ダイナハ撤退後、沖映通りはモノレール(03年開業)駅の側にもかかわらず、人通りは激減した。街の中心商業地域の衰退・空洞化という、各地方都市で起こっている現象である。こうした地域に出店するのは、これまでジュンク堂が行ってきた手法ともいえるが、商業圏として40万人規模(那覇市人口約30万人)の場所に、池袋本店、昨年12月に閉店した北海道店に次ぐ規模(1~3階フロア 売り場面積規模5000㎡ 在庫約120万冊)は異例ともいえるのではないかと。地元では



ジュンク堂那覇店、売り場面積規模5000㎡
在庫約120万冊を誇る

その規模の大きさに不安視する声も聞かれた。沖縄県民の一人当たりの書籍類の購買額は、平成19年の経済通産省の調べでは、全国で45番目という低い数字である。また地元書店からは、決して多くはない顧客の奪い合いになるのではと危機感を強めた。

20年ほど前、国際通り周辺には、復帰前から続く球陽堂、文教図書、安木屋、みつや書店など、老舗の中・小規模の10店ほどの書店があった。復帰前は日本からの雑誌・書籍は「輸入制限」が設けられ、復帰後も、地理的な要因によって週刊誌や新刊書籍などは発売が一週間ほど遅れるという流通

上のハンディは、地元では「当たり前」の事であった。その当時はそもそも「買いたい本がない」というほど本の情報があるわけでもなく、新刊をいち早く買うというスピードを地元客は求めていたわけでもなかった。

国際通りは、そもそも地元客向けの専門店やデパートなどと観光客向けの土産物店が混在する通りであったが、90年代以降、郊外大型ショッピングモールの増加による地元客の減少と、沖縄の生活文化を売り物とした「沖縄ブーム」を背景とした観光客の増大にともない、観光関連のショップが建ち並ぶ通りへと変貌した。日用品、食材を扱っている市場も、日頃は観光客をメインとする品揃えにシフトしていった。現在国際通りを歩く8割ほどが観光客と言われている。書店もその動きの中で閉店や店舗を郊外に移動していった。

街角から中・小規模書店がどんどん消えていっているこの状況は、この数年顕著である。沖縄県書店商業組合の組合員は1988年の創立当時98業者だったが、現在は42業者まで減少している。実はジュンク堂が出店する4月には国際通りに面する書店は全て無くなってしまっていたのである。

老舗の伝統を受け継いだリプロ、そこへジュンク堂、宮脇書店も参戦!

現在国際通りにもっとも近い書店は、地元デパート・リウボウ店内にある「リウボウブックセンター リプロ」ということになる。リプロは、03年に地元の老舗書店だった文教図書が倒産した後を受けて沖縄へ出店したという経緯がある。沖縄県内の版元にとっては、文教図書時代から続く去年で10回を数えるに至った「沖縄県産本ブックフェア」の会場である。老舗の伝統を受け継ぎ、特に沖縄県内版元の本は、ほぼ

揃える重要店である。

県内で新しいショッピングモールが出来ると、そこには必ず書店が出店する。現在その筆頭ともいえるのが、二十三年前に沖縄進出してきた宮脇書店(本店香川県)である。県内各地に14店舗を展開し、既に地域に密着した観のある宮脇書店は、沖縄の本店として、ジュンク堂から歩いて15分ほどの臨海複合施設ビル「とまりん」(那覇市などが第三セクター方式で建てたビル)に、売り場総面積2100㎡、在庫数80万冊の店舗を出店することを、今年の3月に発表した。

今まで大型書店が無かった那覇市街地に、一挙に二店舗合わせて200万冊である。オープンしたジュンク堂那覇店開店の2日前というから、地元新聞は「書店業界激戦の様相」と、社会欄で大きく扱うほどであった。書店の話

題でこれほどの話題になるのは沖縄では初めてのことだろう。

新規開店効果か、売上も上々。足が遠のいていた沖映通りにも人の流れが

沖縄県内の版元としては、「郷土本コーナー」が気になるところである。ジュンク堂那覇店は、沖縄関係コーナーを100坪のスペースをとり、宮脇書店とまりん本店は、「沖縄郷図書センター」を設けた。それぞれ郷土コーナーの規模としては県内最大である。

そして4月、両店舗は開店を迎えた。とりわけ注目されていたジュンク堂那覇店に初日足を運んで驚いた。1階から3階までのフロアに人があふれんばかりで、五つある1階レジには、お客が長蛇の列を作っていたのだ。こういう光景は東京などの大都市でしか見

られないと思っていた。話題になった巨大書店をとりあえず見に来たという客も多いだろうが、開店から3日間で4千万近い売り上げをしたというから、予想を超えた結果であろう。ネットによって、全国どこでもほぼ同じ量の本の情報を得ることは出来る。しかしその現物を見ることの出来なかった地方の読者にとって、実際現物を手にとれる、ということ自体がイベント的な行為だったかもしれない。実際地元客の足が遠のいていた沖映通りにも人の流れが出来ていた。本屋さん人が集まり、商店街に人通りが戻る、というのは、期待通りの光景だが、開店直後の話題から落ち着きを見せるであろう今後、どのように変化していくのか、注意深く見ていきたい。

(しんじょう かずひろ/ボーダーインク編集担当)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『ちいさなよるのおんがくかい - チェコの絵本シリーズ』 ●ヨゼフ・パレチュク絵 リブシェ・パレチコヴァー文 木村有子訳



絵本大国チェコ。日本でも80種類ほどのチェコの絵本が翻訳されていたそうだが、そのほとんどが絶版となっている。色彩の魔術師として世界中の読者を魅了しているヨゼフ・パレチュク氏の絵本が、新たな訳と、新たな絵で出版された。「ねこにごちゅうい!」「ひつじかいと虹のおはなし」「ねむくなるおはなし」「ちいさなよるのおんがくかい」等14編の不思議なお話に、パレチュク

の豊かな色彩の幻想的な絵がハーモニーを奏でる。彼の絵本の世界は、幻想的で夢をみているように。自らの絵本を「色で語る色彩芸術」と自負するだけあって、色彩が語る物語を大人も堪能できる。

◆1680円・248mm×260mm判・32頁・アットアームズ・大阪・2009/3刊・ISBN978-4-903116-02-0

『木靴をはいて 面影の函館 - 函館散文詩集/はこだて写真図書館叢書2』 ●長谷川濬著



函館の有名な長谷川四兄弟の三男・濬の遺構集。長兄は谷謙次・牧逸馬・林不忘の筆名を持つ流行作家、四男の四郎は「シベリア物語」などで名高い。その中で著者は最も地味な存在だったが、バイコフの「偉大なる王」の翻訳者として今日も多くの読者を持つ。大阪外語学校ロシア語科を卒業後は満州国外交部に勤務し、多彩な文化活動に従事した。国内に引き揚げ後は不遇であったが、戦

後書き継いだ百冊余りのノートが残され、死の間際に書かれた最後の一冊に函館の思い出が綴られていた。大正期の函館を写したアマチュア写真家・故熊谷孝太郎の作品も収められ、当時の函館も甦り、著者の望郷の思いが溢れる散文詩集。

◆2520円・205mm×175mm判・173頁・モール・北海道・2009/4刊・ISBN978-4-938628-50-5

『アフガニスタンの大地とともに - 伊藤和也 遺稿・追悼文集』 ●ペシャワール会編



2008年8月26日、伊藤和也はアフガニスタンの地で凶弾に斃れた。享年31歳。彼の所属するNGOペシャワール会(代表中村哲医師)は、25年前、現地の人々への医療を開始、あわせて1500箇所に井戸を掘り、農業用水路を拓いて3000ヘクタールの田畑を潤した。その農地にふさわしい作物を見つけ、旱魃と戦いで荒廃した大地に農業を甦らせるのが彼の仕事であった。試験農場でサツマイ

モ、水稲、ブドウ、茶、除虫菊など次々に作付けながら、現地の「子供たちが将来食べ物に困らないように」するのが彼の願いだった。本書は、現地にとけ込み子供たちに慕われた5年間を多くの写真で紹介し、彼の仕事の報告と追悼文を掲載し、彼が遺した深い志がうかがえる一冊だ。

◆1575円・A5判・261頁・石風社・福岡・2009/4刊・ISBN978-4-88344-172-3

売行良好書

期間：2009年4月16日～5月15日

〔出荷センター扱い〕 ※税込み価格

- (1)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (2)『いい会社をつくりましょう。』1260円・文屋 (3)『ゆりちかへ』1365円・書肆侃侃房 (4)『野菜をたべる』1260円・ベターホーム出版局 (5)『肥薩線の近代化遺産』2205円・弦書房 (6)『浅田家』2730円・赤々舎 (7)『絶景・珍景 ニッポン百景』1050円・アートヴィレッジ (8)『街道を歩く 甲州街道』1890円・揺籃社 (9)『シネキャピタル』1890円・洛北出版 (10)『自閉症の子どもの生活を支える』1575円・筒井書房 (11)『イエスの涙』1995円・アートヴィレッジ (12)『アフガニスタンの大地とともに』1575円・石風社 (13)『定本 納棺夫日記』1575円・桂書房



〔三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書〕 ※税込み価格

- (1)『東京かわら版 No. 425』420円・東京かわら版 (2)『なまら蝦夷 7号』800円・松岡つとむ (3)『WALK 58』720円・水戸芸術館 (4)『谷根千 92』525円・谷根千工房 (5)『北海道いい旅研究室 11』690円・海豹社 (6)『酒とつまみ 11号』400円・酒とつまみ社 (7)『映画「お葬式」シナリオつき絵コンテノート』735円・伊丹十三記念館 (8)『近江が生んだ知将 石田三成』1260円・サンライズ出版 (9)『奄美自立論』2100円・南方新社 (10)『アフガニスタンの大地とともに』1575円・石風社

〔ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書〕 ※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『広告批評 第336号』1260円・マドラ出版 (2)『東京かわら版 No. 425』420円・東京かわら版 (3)『街道を歩く 甲州街道』1890円・揺籃社 (4)『古本買いまくり漫遊記』1890円・本の雑誌社 (5)『軍艦島の遺産』1000円・長崎新聞社 (6)『九州発 最後のブルートレイン』2940円・海鳥社 (7)『信州善光寺案内』1260円・しなのき書房 (8)『とほ 2009-2010』420円・とほネットワーク旅人宿の会 (9)『ハケ岳の食卓』1500円・西海出版 (10)『九州美少女写真館』1470円・海鳥社

以下ホームページでも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス — ★★★

▼『広告批評』最終号が増刷

4月下旬に配本となった『広告批評』最終号ですが、いつもの倍となる1260円という値段にもかかわらず、書店さんから相次いで完売・補充注文の連絡が。初回印刷分は品切となり、5月中旬に異例の増刷となりました。店頭販売は6月で完全に終わりとなりますが、書店さんからの注文は毎日のように続いています。白い表紙の真ん中に「30年間ありがとうございました。広告批評」と入っているだけのシンプルな装幀が、さすがに絶大な広告効果を生んでいるようです。なおバックナンバーやマドラ出版刊行書籍も6月で店頭販売は終了となります。

▼ニコリ社長の鍛冶さんがテレビに

パズル雑誌『ニコリ』を刊行するパズル制作集団・ニコリの鍛冶真起社長が、5月15日、テレビ東京系列の『世界を変える100人の日本人! JAPAN ALL STARS』というテレビ番組で取り上げられていました。ニコリ発のパズル「数独(SUDOKU)」は2005年にイギリスで火がついて、今や世界109カ国に広まり、その世界的な熱狂はかつてのルービックキューブ以来と言われました。鍛冶さんは欧米では、「数独(SUDOKU)」の生みの親として「FATHER OF SUDOKU」の称号をもち、たいへんな尊敬を集めています。アフリカ・モザンビークの学校で数独を子どもたちに教えるところなど、数独を世界に広める姿が放映されていました。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。


◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございました場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM～8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

